

『リベラルアーツ&サイエンス学会雑誌』創刊に寄せて

武蔵学園創立 100 周年を迎えた 2022 年度に、武蔵大学にリベラルアーツ&サイエンスセンター (Liberal Arts and Sciences Center: 以下 LASEC) が設置され、リベラルアーツ&サイエンス教育を担うための教育組織、教員組織が整えられました。

LASEC では英語などの外国語科目、全学共通の専門科目、第二の専門である副専攻、サイエンスの代表ともいえる物理学や化学、生物学などの自然科学を学びの中核に位置付け、学部学科 (専攻) の学びとは別に全学生に向けて分野横断的な共通の学びの機会を提供することを目的としています。そのため、LASEC の教員組織も、他の学部とは異なり、自然科学、身体運動科学、教育学、外国語、そして歴史学など、多彩な専門分野で活躍する教員から成り立っています。

そのような学際的な広がりを持つ研究成果を公にする場として誕生したのが、『リベラルアーツ&サイエンス学会雑誌』です。

第 1 号 (創刊号) である本誌に掲載された論文のタイトルをご覧くださいと、「国際化学オリンピックにおける放射化学および核化学に関する出題」「細胞生物学的研究手法を用いた自然環境の調査方法の探索」「The Importance of Fostering English Language Learner Autonomy in Secondary Tertiary ESL Education of Japan」そして「西洋近代科学と中国伝統思想 —— 薬学・哲学・倫理学」と、研究分野が自然科学から外国語、哲学、倫理学まで幅広い分野にわたっていることに気が付かれることと思います。

情報技術がものすごい勢いで発達する中で、私たちはさまざまな情報をより早く、より安価に手に入れることができるようになりました。しかしながら、一つひとつの情報は「点」に過ぎません。「点」の情報に価値がないとは言えませんが、未来に向かってより必要となってくる能力とは、点と点を結び全体像を構築する能力です。

「西洋近代科学と中国伝統思想 —— 薬学・哲学・倫理学」を投稿いただいた聶菲璘 (ニエ・フェイリン、NIE, Feilin) 氏は、「医療手段も含めての薬物治療は人類の健康を保障するものなのかどうか」という問題に対して、薬学、哲学、そして倫理学の知識をつなぎ、融合しながら取り組んでいます。

全体は部分の総和に勝るとは、アリストテレスが残した言葉とされていますが、『リベラルアーツ&サイエンス学会雑誌』がそれぞれの専門分野の知の領域を深く掘り下げ、また広げるだけではなく、さまざまな知をつなぎ、新しい総合知が生まれる場になることを期待しています。

武蔵大学長
高橋 德行